

「脚下照顧」



銭湯と戦闘の関係

かぁー！暑い夏が到来しました！皆さん、いかがお過ごしでしょうか？

私の最近の楽しみは、岡崎に何年かぶりに出来た映画館で映画を見て、その後、これも今年出来たばかりの『楽の湯』というスーパー銭湯でただひたすら『ボ

ケ-----』とすることです。

安全、コンプライアンス、環境、品質、技術、教育、社会奉仕、人間関係、売り上げ、その他もろもろもろもろもろもろ-----！』と、現代人はほっといても色々と考えてしまうことが山積みなので、何も考えない時間帯をあえて作る必要があるのではないのでしょうか？

『古池や蛙飛びこむ水の音』ここまでの静寂幽玄感が得られれば言うことないのですが、これがなかなか難しい。っていうかスーパー銭湯は今、スーパー戦闘状態と化しています。

銭湯の作業責任者を自認する私から見た『銭湯の現在～湯けむりの向こうに見える現代日本の親子関係の病理～』を報告したいと思います。

まず最大の問題点は 掛け湯をしないでお湯にドボン タオルを平気で湯ぶねにつける シャワーが飛び散って他人様にかかっても平気 サウナに出たり入ったり鬼ごっこしたりして頻繁にドアを開け閉めする為、サウナの温度が下がる 風呂桶やいすをもとあった美しい状態に決して戻さない。 体をタオルで拭き上げずに脱衣場に入ってきて水浸しにしてしまう。

以上6点がパトロール指摘上位項目で、銭湯の玄人、風呂通の世界ではイエローカードものなのですが、それ以上にこういう行為を黙認している親に対しては完全にレッドカードです。っていうか親も自分のやっていることがいかに他人様に迷惑を掛けているか気づいていない。お金を払っている以上、自分は客で、何をやっても許されると思っている。

ひどい親はふやけたバンドエイド、使い捨てカミソリ、歯ブラシなども平気で放置して去っていきます。

この銭湯の戦闘状態は日本人が第2次世界大戦後、個人の幸福のみ、出世のみを目指してきた結末であるというのは明らかで、そのことに気づいて公衆マナーを守って銭湯ライフを楽しんでいらっしゃる方たちもたくさん見かけますが、その何倍もの棒弱無人な日本人で溢れかえっているのが現実です。

江戸時代の言葉で『すべて銭湯には五常あり』という言葉があります。五常とは仁・義・礼・智・信のことで、銭湯は江戸時代の子供たちにとって社会の暗黙のルールを学ぶ格好の場所であったといわれています。

江戸っ子特有の『江戸しぐさ』のようにはやれませんが、多少やせ我慢してでも、子供たちの前では、粋なしぐさを見せてやりたいものです。難しいでしょうか？そんなことはないと思います。我々は現場でもうすでに『一仕事、一片付け』という粋なしぐさを身に着けているからです。

風呂桶といすをキチンと洗い、元位置に戻し、タオルで体をしっかり拭き上げ、優雅に脱衣場に再入場し、静かに体重計に乗り、慎重に千枚通しで牛乳瓶のふたを開け、腰に手を当てて、一気に飲み干し、指差し呼称、牛乳瓶後片づけヨシ！！『銭湯テクアしぐさ』やってみてください。あなたも玄人の仲間入りです(笑)。人生楽しくご安全に！！

感謝 羽原篤史

